

研究集録に寄せて

沖縄県立美咲特別支援学校
総合教育センター分教室
教頭 比嘉 淳

春はまだ浅い時期ですが、県立総合教育センターにも暖かな春の日差しを感じる頃となりました。令和4年4月に職員11名、2年生12名、3年生9名でスタートした総合教育センター分教室も、まもなく1年目を迎えます。

本分教室は、本校の過密化消と教育環境の改善を目的とし、宿泊棟食堂及び調理場を学習環境の場と変えて開教室の運びとなりました。1年目をふり返ると、本校とは違った環境のなかで、職員が学校教育目標達成に向け生徒の指導に尽力したこと、それを受けて生徒の心身の成長がうかがえたこと、そして、保護者、本校職員、教育センター所員と多くの方々に支えられたことなど、感謝の念に堪えません。

センター分教室の生徒は「全員一般就労」を目指し、これまで職員が授業展開、評価や改善を続けてきました。その為、今年度、本校の研修テーマである「新学習指導要領を踏まえ学習の意義を子ども達と共有できる授業づくりを目指して～指導と評価が一体化された分かりやすい授業作り～」を受け、より具体的に地域や生徒の実状を踏まえ、分教室では「～軽度の知的障害のある生徒の教育活動の充実、職業自立、社会自立にむけた授業づくり～」という独自の研修サブテーマを掲げ、研修の焦点化、実践的研究を進めることとなりました。

現状では、備品や環境整理もままならないなか、分教室職員が研修を進め、今回このような研究集録という形になりました。普段の授業のなかで、年間指導計画を見直し、教科別の目標だけでなく教科横断的な視点において、授業を進めてきた分教室職員は、職業を指導するうえで専門性向上の成果の1つではないかと感じています。本集録を読まれて気づきや感想もあるかと思いますが、分教室職員が研修を主体的に捉え、次年度学びの場を変更する2年生、3年生への授業改善につなげようという意欲を感じていただけますと幸いです。

今後も資質・能力の3つの柱の育成を進め、生徒全員一般就労を目指して、センター分教室職員一丸となって尽力することを継続していきたいと思えます。また、本研究集録が、本校の軽度知的障害対象生徒の授業をはじめ、高等部の授業改善の一助になれば幸いです。

令和5年3月

I 美咲特別支援学校「教育センターちゅらさき分教室」の概要

「美咲特別支援学校教育センター分教室（通称、ちゅらさき分教室）」（以下、「ちゅらさき分教室」と表す）は、沖縄県立美咲特別支援学校（以下、「本校」と表す）の幼児児童生徒の在籍数増加による狭あい化、教室環境の改善に向けた方策のひとつとして、令和4年4月から沖縄県総合教育センター内に開室された。

ちゅらさき分教室の対象とする生徒は、教育課程（Ⅱ課程A類型）を履修する高等部2年、3年を対象とし、令和4年度は、2年生12名、3年生9名が在籍している。ほぼ9割の生徒が、日常生活やコミュニケーションなど普段の生活にほとんど支障がない知的障害の軽い生徒である。

ちゅらさき分教室の基本方針は、生徒の企業就労（一般就労）と社会参加を目指すことである。そのため、「①. より実践的な職業教育の充実を図り」、「②. 自立、社会参加を目指し、社会性や規範意識を高める授業展開を行う」ことに重点を置き、生徒の就労に向けた教育活動に取り組むことである。

Ⅱ 令和4年度「ちゅらさき分教室」研修の概要

1. ちゅらさき分教室の現状と課題

今年度スタートした分教室であるため、全ての事項で分教室基盤作りが求められている。

その中でも特に「①新しい場所に設置された分教室として、緊急時や災害時にどのように生徒の安全健康を守るのか」「②対象としている軽度の知的障害のある生徒、保護者の教育的ニーズへどう答えて行くのか」という2つの課題解決が急務であると考えた。

上記の課題①に関して、教育センターと連携、協力し、各災害の避難訓練や緊急時シミュレーション行い対応を確認した。また、ちゅらさき分教室独自で、津波の危険性が高い場合の避難場所の検討、避難誘導訓練の実施を行った。その中で確認できた課題を更に改善する必要があり、今後の課題とし引き続き、検討を重ねていく予定である。

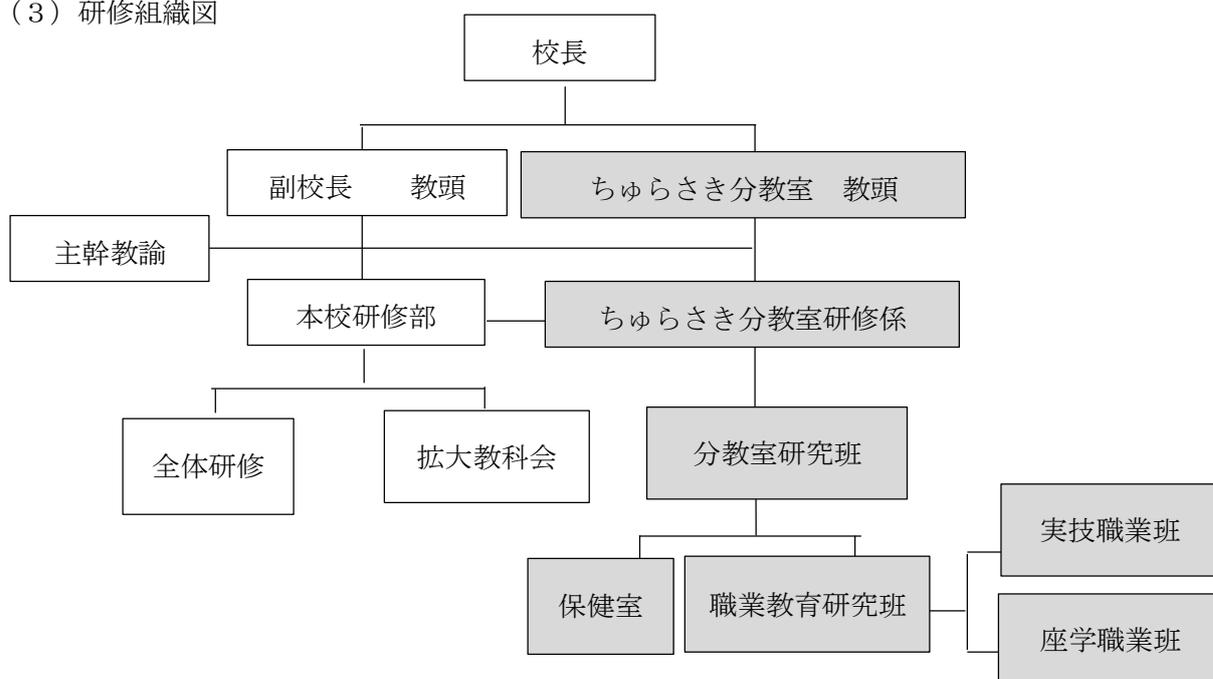
課題②に関して、ちゅらさき分教室の9割を占める軽度の知的障害のある生徒の特性、課題、教育的ニーズなどを分析し、生徒に必要な教材の研修や指導方法の情報交換などを行い、教育活動の充実、職業自立、社会自立に向けた充実した授業づくりに取り組む必要があると考えた。そこで、ちゅらさき分教室独自で研究班を編制し、今年度は、教科「職業」の研究を行った。

2. ちゅらさき分教室研修組織

(1) ちゅらさき分教室の職員は、本校で実施される全体研修、拡大教科会に参加し修養を図る。

(2) ちゅらさき分教室では、本校の研究主題に沿って独自にサブテーマと研究班を設け、軽度の知的障害のある生徒を対象にした教材研修や指導方法の情報交換、授業実践を行い、成果の確認、共有を図る。

(3) 研修組織図



3. 研修計画

- ・本校の全体研修を基に、ちゅらさき分教室独自の研修を計画、実施した。

学期	月日	回数	研修事項・テーマなど	研修内容	研修方法	連携・講師
1	4月	1	校務システム研修	公簿作成等について	全体研修	
	4月13日	2	アレルギー研修	オンライン(Dr.講話)	全体研修	保健係
	5月	3	学部研修① (自立活動①)	自立活動について	分教室研修	本校自立活動世話役
	5月	4	学部研修② (安全対応)	津波避難に向けて (地理的確認など)	分教室研修	安全係
	6月15日	5	学部研修③ (自立活動②)	本分教室の自立活動について	分教室研修	
		6	学部研修④(研修)	年間指導計画、個別の指導計画作成について		教頭
	7月13日	7	公開授業 授業研究会(幼小)	授業研究及び情報交換	全体研修	
夏	7月22日	8	外部講師招聘	オンライン(三浦先生講話)	全体研修	
	7月	9	学部研修⑤ (自立活動③)	個々の自立活動流れ図確認	分教室研修	
		10	拡大研修	系統性、一貫性のある授業改善に向けて	全体研修	

	8月	11	学部研修⑥ (職業に関して①)	教育センター分教室職業について	分教室研修	
	8月25日	12	応急手当講習会	心肺蘇生法、AED使用方法	分教室研修	保健
2	9月7日	13	学部研修⑦ (職業に関して②)	各班での課題、取り組み内容確認	分教室研修	
	9月21日	14	公開授業、 授業研究会(高)	授業研究及び情報交換	全体研修	
	10月12日	15	学部研修⑦ (職業に関して③)	各班での取り組み内容確認	分教室研修	
	11月15日	16	公開授業、 授業研究会(中)	授業研究及び情報交換	全体研修	
	11月	17	主事招聘研究授業	研究授業・授業研究会	全体研修 (希望者)	拠点
	12月13日	18	緊急時シミュレーション	緊急時における対処法	分教室研修	保健
	12月	19	進路研修	企業就労に関して (就労支援コーディネーター 翁長氏)		本校進路指導
3	1月11日	20	学部研修⑧ (職業に関して④)	これからの高等部職業について(校長)確認 職業の授業に関する成果と課題まとめ	分教室研修	
	2月6日	21	中堅研修成果報告会	研究成果報告	全体研修	中堅研
	2月	22	研修収録まとめ	七分内研修収録の最終確認	分教室研修	